

「世界の文化首都・京都」元年に

－ 文化×産業の創造

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今年の干支は「丁酉^{ひのととり}」であり、植物が育ち、果実が実っている様子を意味すると言われていています。京都経済はもちろん、日本経済にとって、新たな価値創造やイノベーションに挑戦し、未来に向けて飛躍できる1年にしたいと思っています。

去年は、文化庁の京都移転の決定や、京都経済センター計画が関係者の合意のもとで動き出すなど、オール京都で取り組んできた成果が実る1年となりました。本年は、こうした動きを具体的に進めていく年にしたいと考えています。

オール京都で策定した「京都ビジョン2040」では、ありたい姿のひとつに「世界の文化首都・京都」を掲げています。京都は日本文化の中核都市であり、人々の生活に文化が息づき、貴重な文化財やそれらを支える伝統産業が集積しています。文化庁を迎えることによって、日本文化の振興・発展に京都として貢献できるとともに、伝統産業の振興や文化を活かした観光振興、まちづくり、人材育成など、幅広い分野で文化庁と連携して取り組めるのではないかと期待しています。

文化を活かした地方創生や、新産業の創造を成功させるヒントは、「知恵産業」にあります。昨年11月に発表した「京商ビジョンNEXT」では、「知恵の集積」に向けた重点プランの1つとして「文化×産業の創造」を掲げています。京都の文化や知恵を付加価値の源泉として、新たな価値創造やイノベーションに挑戦し続けること

が、価値創造都市・京都の実現に向けた地域の未来を切り拓きます。文化庁移転を機に、文化・芸術をはじめ、観光・おもてなし、健康・医療・福祉など、さまざまな分野で、伝統産業から先端産業までの幅広い知恵ビジネスが群生する「知恵産業の森」を実現したいと思っています。

本年は、2020年の東京五輪を見据えた「京都文化カプロジェクト」が本格的に始動し、文化芸術による交流を促進する「東アジア文化都市 2017」をはじめ、市内各地でさまざまな関連イベントが行われます。また文化庁全面移転に向けた先行組織として「地域文化創生本部（仮称）」が設置されるなど、文化をテーマに重点的に取り組む1年となります。そこで今年を「世界の文化首都・京都」元年と位置づけ、京都の文化や産業の魅力を高め、広く発信することで、人、文化、産業の交流をさらに拡大したいと考えています。

また、京都経済センター（仮称）については、「京都経済百年の計」にふさわしいイノベーションが創発される拠点として整備したいと考えています。未来に向けた創造的な知恵の連携拠点として、世界への情報発信基地となるよう、オール京都の力を結集して、竣工に向けて邁進してまいりたいと思います。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所活動への一層の参画をお願い申し上げ、新年のあいさついたします。

平成29年1月1日
京都商工会議所
会頭 立石 義雄